



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



ロケット発射の原理を実験で体験



谷垣さんの発案で「こうのとりのゆりかご」2号機でISSに運ばれた城崎小学校写真



地球の模型を使って説明する谷垣さん

願って努力すれば、きっと、かなう。

宇宙研究・教育の普及に奔走する元気人

宇宙実験の傍ら、未来を担う子どもたちに、宇宙教育を通じて夢や希望を育む元気な男性を紹介し
ます。

谷垣文章さん(43歳)城崎町来日出身

夢に向かって

テレビアニメ「宇宙戦艦ヤマト」や「機動戦士ガンダム」が大人気だった小学6年生のころ、谷垣文章少年は「科学者になりたい」という夢を抱きました。そして、中学生になり、その夢は宇宙へと広がりました。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)職員の谷垣文章さんは、有人宇宙環境利用ミッション本部宇宙環境利用センター(茨城県つくば市)の主任開発員です。現在、国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼう」での生物系宇宙実験の総合調整を担当しています。「宇宙に関わる仕事がしたい」と思っていました。視力が落ち、宇宙船のパイロットは断念しましたが、将来人間が宇宙に住むようになったら自給自足で野菜を育てる必要があります。植物の研究者としてなら宇宙に行けるかもしれないと考え、大学で植物生理学を学びました」と夢への道のりを話す谷垣さん。

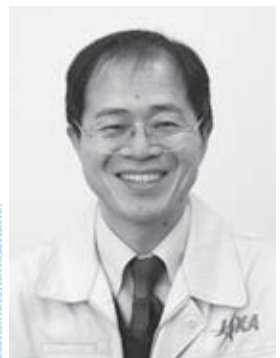
予想は的中。スペースシャトルでメダカや動物細胞などの実験をすることが決まり、

生物を学んだ人材が必要とされていきました。「ちょうどタイミンが就職時期と合い、夢がかないました」と谷垣さんは笑います。

平成5年に就職し、向井千秋宇宙飛行士がスペースシャトルで行う最初の生物系宇宙実験を担当しました。「無重力空間では、植物は地上と違う育ち方をします。この研究が『台風でも倒れない強靱な稲』のような品種改良にも役立てばと思っています」と谷垣さんは話します。

ISSは巨大な宇宙実験室

地上約400キロメートルの軌道を秒速約8キロメートルで周回するISSは、最大6人が生活できる巨大な宇宙実験室です。そこで、無重力を利用したさまざまな実験が行われています。このプロジェクトに世界15カ国が協力をしており、まさに「平和のシンボル」と言えます。「今後、ISSの教育・商用利用を進め、宇宙を身近に感じられるようにしたいですね」と谷垣さん。



谷垣文章さんプロフィール
城崎町来日出身。県立豊岡高等学校卒業。京都大学大学院修士課程修了。航空宇宙局(NASA)に1年派遣。

地元・豊岡で宇宙教育

宇宙ステーション補給機(HTV)の愛称が「こうのとりに決まりました。昨年1月に2号機の打ち上げが成功し、現在7号機まで計画されています。米国のスペースシャトルが引退した今「こうのとりに」は宇宙へ大量の荷物を運ぶ重要な役割を担っています。豊岡でも宇宙への関心が高まり、谷垣さんを招いて宇宙教育講演会を行っています。「教育プログラムに力を入れています。子どもたちに宇宙飛行士の暮らしや美しい地球の様子などを、模型や実験を交えて紹介しています。豊岡の子どもたちの中から宇宙飛行士やロケットエンジニアが出るとうれしいですね」と目を細めます。谷垣さんが開発したISS用生物実験装置は、谷垣さんの思いものせて今も宇宙を飛んでいます。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

26

豊岡めぐみ幼稚園 (豊岡)

〈園児21人〉



豊岡めぐみ幼稚園は、住宅街の中に位置し、少し歩くと春にはきれいな桜が咲く神武山公園があります。

1月27日、こま回し会が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

2種目行います。

初めに先生のルール説明、注意事項を聞きます。

競技種目は

2種類。10回こまを回してそのうち何回回すことがでさるかを競う



「10回こま回し」と、どれだけ長い間こまを回し続けることができるかを競う「長生き競争」です。ポイント制で上位者には先生が手作りしたメダルが渡されます。

「メダル欲しい人？」の問いに園児たちは「はい！」と元気よく答えます。

うまく回せるかな

「これからこま回し会を始めます！」と元氣良く始まりのあいさつを行い、競技に入ります。

先生が「用意はいいよ?」と聞くと園児が

「用意はいいよ」と答え、「いち、いのさ〜ん」の合図で一斉にこまを回します。

「10回こま回し」では、回を増すごとに



「長生き競争」では、こまが回り続ける様子を、みんな真剣な表情で見守っていました。

「長生き競争」で

は、こまが回り続ける様子を、みんな真剣な表情で見守っていました。

よくがんばりましたね

ポイント

を多く獲得した園児は園長先生からメダルの授与を受け、他の園児から祝福されて照れていました。



笑顔の輪

アカペラの楽しさを伝えたい!

エルフィッシュ(豊岡)

男女5人のアカペラバンド「エルフィッシュ」は、市内外のイベントでライブ活動を行っています。

エルフィッシュは、もともと、市民会館で年に1回開催されているイベント「アカペラピックinとよおか」を広く周知し、また、地域を盛り上げるために、実行委員会のメンバーで結成したものです。

練習の日程調整が難しく、定期的ではないものの、月に1回程度は集合し、呼吸を合わせています。リーダーの太田博



▲楽しいステージを披露!

ユは、市内でアカペラグループが育ち、豊岡が盛り上がるように元気に歌って、楽しさを伝え、誰もが気軽にアカペラに挑戦したくなるようなステージを常に心掛けています。アカペラをやってみようか、仲の良い友達数人で歌うこと

章さん(元町)は「それぞれのパート合わせが困難で、1曲を仕上げるのに時間が掛かるが、完成した時の心地良さは何とも言えない」と話します。イベントへの出演も、当初は顔見知りからの声掛けなどにより、主に豊岡市内で行っていましたが、ライブを重ね

るうちに市内外を問わず声を掛けられるようになったそうです。今では、曲のレパートリーも15曲程度に増え、30分以上のステージも可能とか。太田さんは「アカペラを身近に感じてもらえるいい機会なので、声が掛ければ出演したい。会場ではお客さんの反応も良く、やって良かったと思うし、これをきっかけに興味を持ってもらえれば」と手応えを感じている様子です。